

けんすけタイムズ
Rensuke TimesLINE
公式アカウント愛知 13 区
安城・刈谷・碧南・知立・高浜

タイトル

立憲代表選・自民総裁選

衆議院議員

おおにし健介



1. 立憲民主党代表選挙



泉代表の任期満了に伴い立憲民主党では代表選挙が行われ、泉さん以外に、野田佳彦元首相、枝野幸男前代表、吉田はるみさんが立候補しました。

私は、泉さんの推薦人となり支援しましたが、野田さんが新代表に選出されました。泉さんは、議席を減らした前回の総選挙の後、40代で野党第一党の党首となりました。この3年間は、立憲民主党にとっては苦しい時期でしたが、先輩方に気を遣い、党内の融和を図り、明るく元気に党を率いてきました。今年4月の3補選に勝利し、「政権交代」を口にすることができるまで党勢を回復させてきた功績は、もっと評価されてもよいのではないかと思います。

泉さんは、まだ50歳です。代表を務めたこの3年間の経験は大きな糧となり、必ずや再登板の機会があると思います。また、私も副会長を務める泉さんを中心とする新政権研究会には、田名部匡代参議院幹事長を含め有為の人材が集まっています。この仲間が核となって政権交代を果たせるよう頑張りたいと思います。

新代表の野田さんには、私が馬淵澄夫代議士の秘書の頃からご指導をいただいておりますし、安城や刈谷にも応援に来ていただいたことがありますし、私も初当選直後は、野田グループ「花斉会」に所属していました。一連の政局流れは、安倍元首相が銃撃され亡くなったことに始まっており、その安倍氏と党首討論で解散を約束し、結果として安倍氏の再登板させたのは野田さんであり、安倍氏の国葬で追悼演説を行ったのも野田さんであり、このタイミングでの野田さんの再登板に何か運命のようなものも感じます。

裏金事件のあった自民党総裁選では、刷新感が求められていますが、野党側には、むしろ安定感が求められているのではないのでしょうか。自民党には嫌気がさしているけれども、野党で本当に政権を担うことなどできるのだからという国民の不安に対して、元首相の野田さんの経験、落ち着きや重量感というのが求められているのかもしれない。また、次の選挙で、これまで自民党に票を入れていた人の受け皿になるには、野田さんのような保守中道の立ち位置の代表が相応しいと思います。

解散総選挙も近いと言われる中、今回の代表選挙では、いわゆる「顔見世」的に若手や女性の候補者を擁立することには、私は正直言って反対の意見でした。しかし、一期生の女性候補、吉田さんが出馬したことで代表選挙の論戦は良いものになったと思います。大先輩を相手に臆せず堂々と議論する吉田さんの姿は見事なもので、わが党の人材の厚みを示すことができたのではないかと思います。

代表選挙後の骨格人事では、野田陣営から、小川淳也幹事長、重徳和彦政調会長というともに私と同じ53歳の若手が抜擢されました。当選回数でも小川さんが1つ上、重徳さんが1つ下で、執行部の世代交代は歓迎です。私も、焦らず、腐らず、怯まず、龍淵に潜む秋、力を蓄えたいと思います。



【衆議院議員 おおにし健介事務所・立憲民主党愛知県第13区総支部】

〒446-0074 愛知県安城市井杭山町高見 8-7 2F TEL: 0566-70-7122 FAX: 0566-74-2008 メール office@oniken-web.jp

2. 自民党総裁選挙



自民党総裁選挙は、派閥の締めつけが緩む中、史上最多の9名が立候補して争われました。

私は、当初、選挙の顔として人気が高く、キングメーカーの長老たちにとっても扱いやすい小泉進次郎氏が新総裁になるのではないかと考えていましたが、発言の軽さや討論能力への不安から、途中、小泉さんは失速。一方で、安倍元首相の後継者を自認し、保守層の人気を集めた高市早苗候補が、初の女性総理誕生への期待もあり、急浮上しました。

私は、高市さんと石破さんの決戦投票になれば、「党内野党」の石破さんは議員票で負け、決戦投票では高市さんが勝つのではないかと見ていましたが、ここでも私の予想はずれ、石破さんが新総裁に選ばれました。

この逆転結果は、立憲民主党の代表が野田さんになったことで、野田さんと論戦で対峙できる人を選ぶという判断が働いた結果ではないかと考えます。

5度目の挑戦で志を貫徹されたことは立派だと思いますし、与党の中であって、我々野党に近い正論を吐き続けてきた方であり、経験豊かな政策通の論客であり、手強い相手だと思います。

石破さんは、与党にしながら、選択的夫婦別姓賛成、金融所得課税強化、政治資金規正法強化など我々野党の意見に近い主張を繰り返してきました。逆に言うと、それが石破さんの国民的人気の高さの理由だったと言えます。最高権力者の総理大臣となった今、石破さんが古い自民党を本気で変え、これまで言ってきたことを実行できるのかが問われると思います。

石破さんは、リクルート事件を受けた政治改革の時には、一旦、自民党を離党しており、政治改革への想いは人一倍強いはずです。また、今回の裏金事件についても「仮に政治活動に使わなかったということなら、納税することになるだろう」と述べていました。

石破氏自身が近いうちに国民の審判を仰ぐと述べていますが、解散総選挙において、裏金議員を公認するのかどうなのか、石破新総裁の本気と覚悟が問われることになると思います。

さらに、石破氏は、防災省の設置を持論にしており、地震から漸く復興に向け歩み始めたばかりにもかかわらず、この度の豪雨に見舞われた能登を置き去りにしたまま解散総選挙を行うのか、能登復興の補正予算はやらないのか、石破氏の判断に注目が集まります。

今回の総裁選では、派閥解消を謳う一方で、総裁選候補者が麻生氏をはじめとする派閥の領袖や党の実力者に頭を下げに行くという場面が見られました。

裏金事件で明らかとなった自民党の派閥政治や金権体質は、表紙を変えても何も変わらないということがここでも明らかになったのではないかと思います。

かくなる上は、野田佳彦か、石破茂か、実力派の2人の四つ相撲で、来るべき総選挙で決着をつけたいと思います。私も決戦に備え、頑張ります。

Profile



▶昭和46年4月13日生まれ ▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選。以来、連続5期当選。

▶党務では、選対委員長、青年局長などを経て、現在は党税政調会長

次の内閣 NC ネクスト内閣官房副長官

▶国会では、予算委員会、厚生労働委員会、消費者問題に関する特別委員会／筆頭理事

▶小学生、中学生2人の男の子のパパ。

ニックネームは「オニケン」